

第1四半期報告書

本書は、EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)システムを利用して金融庁に提出した第1四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものです。

富士興産株式会社

(E01076)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
(1) 【株式の総数等】	6
① 【株式の総数】	6
② 【発行済株式】	6
(2) 【新株予約権等の状況】	6
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	6
(4) 【ライツプランの内容】	6
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	6
(6) 【大株主の状況】	6
(7) 【議決権の状況】	7
① 【発行済株式】	7
② 【自己株式等】	7
2 【役員の状況】	7
第4 【経理の状況】	8
1 【四半期連結財務諸表】	9
(1) 【四半期連結貸借対照表】	9
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	10
【四半期連結損益計算書】	10
【第1四半期連結累計期間】	10
【四半期連結包括利益計算書】	11
【第1四半期連結累計期間】	11
(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】	12
【注記事項】	13
【セグメント情報】	15
2 【その他】	16
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	17
レビュー報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年8月12日
【四半期会計期間】	第87期第1四半期（自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日）
【会社名】	富士興産株式会社
【英訳名】	FUJI KOSAN COMPANY, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 金丸 勇一
【本店の所在の場所】	東京都千代田区神田東松下町13番地
【電話番号】	03(6859)2050（代表）
【事務連絡者氏名】	経理グループリーダー 大橋 亮
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区神田東松下町13番地
【電話番号】	03(6859)2050（代表）
【事務連絡者氏名】	経理グループリーダー 大橋 亮
【縦覧に供する場所】	大阪支店 （大阪市西区土佐堀一丁目5番11号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第86期 第1四半期 連結累計期間	第87期 第1四半期 連結累計期間	第86期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (百万円)	12,471	8,196	50,109
経常利益 (百万円)	78	19	736
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益 (百万円)	51	26	450
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	90	5	269
純資産額 (百万円)	8,593	8,655	8,771
総資産額 (百万円)	14,964	13,822	14,673
1株当たり四半期(当期)純 利益金額 (円)	5.91	3.05	51.55
潜在株式調整後1株当たり四 半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	57.4	62.6	59.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	721	687	1,355
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△478	△840	△539
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△159	△137	△214
現金及び現金同等物の四半期 末(期末)残高 (百万円)	3,900	4,128	4,418

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等（消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。）は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、企業の雇用や設備投資は底堅く推移したものの、国内消費の回復速度は鈍く、新興国経済の減速懸念などによる低調な輸出も加わり、停滞感の強い動きとなりました。

このような経営環境の下で当社グループは、前期にスタートした中期経営計画『「FK17変革とチャレンジ」～強固な事業基盤の再構築を目指して～』の基本方針と事業別施策に沿って、各事業に取り組んでまいりました。しかし、当社グループのコア事業である石油事業では、前期に続き採算販売に比重を置いた営業活動に努めたものの、需要の停滞などの影響から、収益面では厳しい状況が続きました。

子会社が営むホームエネルギー事業は順調に推移し、好調であった前期並みの利益を計上したものの、レンタル事業は、公共工事の大幅な減少から苦戦しました。また、新規事業として取り組んでいるメガソーラー発電事業につきましては、3ヶ所目となる発電所を鹿児島県に開所し、6月より売電を開始しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、石油事業における製品販売価格の大幅な低下や販売数量減少の影響により、前年同期比42億円（34.3%）減少の81億円となりました。損益面では、売上総利益は、石油事業の収益が減少したことなどの影響から、前年同期比61百万円減少の752百万円となり、営業損益は、56百万円減少して12百万円の損失となりました。経常損益は、営業外損益に資産賃貸収入など31百万円の利益を計上したため、19百万円の利益（前年同期比59百万円減少）となり、法人税等を調整した親会社株主に帰属する四半期純損益は、26百万円の利益（前年同期比24百万円減少）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

「石油事業」

石油業界におきましては、前期の夏場以降再び急落した原油価格は、当期に入り僅かな戻りはあったものの、前年同期と比べ20ドル／バレル前後低い価格で推移しました。国内の石油製品需要につきましては、製品販売価格が原油安の影響により大幅に低下したものの、国内経済の回復の遅れなどの影響から需要は上向かず、ほぼ全ての油種で前年同期並みとなりました。

このような厳しい環境の下で当社グループは、計画の数値目標に拘り、仕入コストに見合った採算販売に努めるとともに、新規顧客の獲得にも力を入れてまいりました。しかし、需要の停滞などから数量は減少し、採算面でも厳しい状況が続きました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、製品販売価格の下落などの影響により、前年同期比42億円（35.9%）減少の76億円となり、営業損益は、販売数量減少などの影響から28百万円の損失（前年同期は10百万円の利益）となりました。

「ホームエネルギー事業」

北海道道央地域に営業基盤を有するホームエネルギー事業（LPG・灯油など家庭用燃料小売事業）におきましては、暖房用灯油は、節約志向の定着などによる減少はあったものの、春先の気温低下による増加がこれを上回り、販売数量は若干の増加となりました。また、LPGの需要も堅調に推移しました。

このような環境の下で当社グループは、LPGの積極的な営業活動と新規投資により供給戸数の拡大を図るとともに、製品販売価格が低下傾向となるなかで、採算販売の徹底にも努めました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、好調であった前年同期並みの290百万円となり、営業利益も、前年同期並みの42百万円を確保することができました。

「レンタル事業」

北海道道央地域に営業基盤を有する建設機材レンタル事業におきましては、道内の公共投資は昨年に続き低調に推移し、昨年の夏場以降急激に落ち込んだ工事件数は、持ち直しの気配はあるものの、厳しい状態が続きました。

このような厳しい環境の下で当社グループは、営業拠点の充実を図り、より多くの地元企業の需要取り込みに力を入れるとともに、需要の高い機材への投資を増やし保有機材の有効活用に努めました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、工事件数の落ち込みから、前年同相比7百万円（2.4%）減少の288百万円となり、営業損益は、第1四半期連結累計期間が道内の不需要期に当たることも重なり、26百万円の損失（前年同期は11百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ850百万円減少の13,822百万円となりました。この主な要因は、受取手形及び売掛金の減少1,403百万円や現金及び預金の減少289百万円などの減少要因が、有形固定資産の増加758百万円などの増加要因を上回ったことによるものであります。

また、負債合計は、前連結会計年度末に比べ734百万円減少の5,166百万円となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金の減少254百万円や未払法人税等の減少175百万円などによるものであります。

純資産合計は、剰余金の配当による減少122百万円を含め、前連結会計年度末に比べ116百万円減少の8,655百万円となり、自己資本比率は62.6%となりました。

なお、資産及び負債の減少は、主に季節的変動によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、投資活動及び財務活動で使用了資金が、営業活動により増加した資金を上回り、当第1四半期連結会計期間末の資金残高は前連結会計年度末に比べ289百万円減少して4,128百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により増加した資金は687百万円（前年同期は721百万円の増加）となりました。これは売上債権の減少額1,403百万円などの資金増加要因が、仕入債務の減少額256百万円や法人税等の支払額161百万円、環境対策引当金の減少額135百万円などの資金減少要因を上回ったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用了資金は840百万円（前年同期は478百万円の使用）となりました。これは有形固定資産の取得による支出855百万円などの資金減少要因によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用了資金は137百万円（前年同期は159百万円の使用）となりました。これは配当金の支払額122百万円などの資金減少要因によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当社グループは、研究開発活動を行っておりません。

(6) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設について、当第1四半期連結累計期間に鹿児島県阿久根市の太陽光発電設備の建設が完了し、平成28年6月より稼働しております。

また、当第1四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画は次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方 法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社 坂東発電所	茨城県坂東市	石油事業	太陽光発電設備	315	157	自己資金	平成28年 5月	平成28年 11月	—

(7) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

前事業年度の有価証券報告書に記載した経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しについての重要な変更はありません。

(8) 経営者の問題認識と今後の方針について

前事業年度の有価証券報告書に記載した経営者の問題認識と今後の方針についての重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数（株） （平成28年6月30日）	提出日現在発行数 （株） （平成28年8月12日）	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,743,907	8,743,907	東京証券取引所 （市場第一部）	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	8,743,907	8,743,907	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （千株）	発行済株式 総数残高 （千株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金 増減額 （百万円）	資本準備金 残高 （百万円）
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日	—	8,743	—	5,527	—	48

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 5,100	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 8,727,100	87,271	—
単元未満株式	普通株式 11,707	—	—
発行済株式総数	8,743,907	—	—
総株主の議決権	—	87,271	—

（注）「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,700株（議決権17個）含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
（自己保有株式） 富士興産株式会社	東京都千代田区神田東松下町13番地	5,100	—	5,100	0.06
計	—	5,100	—	5,100	0.06

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,418	4,128
受取手形及び売掛金	5,052	3,648
商品及び製品	247	317
その他	450	472
貸倒引当金	△6	△5
流動資産合計	10,163	8,562
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,277	1,277
その他(純額)	2,468	3,226
有形固定資産合計	3,746	4,504
無形固定資産	113	110
投資その他の資産	※1649	※1643
固定資産合計	4,509	5,259
資産合計	14,673	13,822
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,610	2,356
未払法人税等	191	16
環境対策引当金	276	141
預り金	1,439	1,506
その他	713	475
流動負債合計	5,231	4,495
固定負債		
引当金	40	38
退職給付に係る負債	427	421
その他	201	210
固定負債合計	669	670
負債合計	5,901	5,166
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,527	5,527
資本剰余金	48	48
利益剰余金	2,978	2,882
自己株式	△5	△5
株主資本合計	8,549	8,453
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	222	201
その他の包括利益累計額合計	222	201
純資産合計	8,771	8,655
負債純資産合計	14,673	13,822

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
売上高	12,471	8,196
売上原価	11,657	7,444
売上総利益	814	752
販売費及び一般管理費	769	764
営業利益又は営業損失(△)	44	△12
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	18	13
固定資産賃貸料	22	23
業務受託料	10	12
軽油引取税交付金	8	6
その他	1	4
営業外収益合計	62	60
営業外費用		
支払利息	6	5
固定資産賃貸費用	9	9
業務受託費用	10	11
その他	3	2
営業外費用合計	28	29
経常利益	78	19
特別利益		
固定資産売却益	18	19
特別利益合計	18	19
特別損失		
その他	0	—
特別損失合計	0	—
税金等調整前四半期純利益	96	39
法人税、住民税及び事業税	26	△4
法人税等調整額	18	16
法人税等合計	44	12
四半期純利益	51	26
親会社株主に帰属する四半期純利益	51	26

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益	51	26
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	38	△20
その他の包括利益合計	38	△20
四半期包括利益	90	5
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	90	5
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	96	39
減価償却費	87	104
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	△1
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	1	△3
修繕引当金の増減額 (△は減少)	0	1
環境対策引当金の増減額 (△は減少)	0	△135
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△31	△5
固定資産売却損益 (△は益)	△18	△19
売上債権の増減額 (△は増加)	1,870	1,403
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△51	△70
仕入債務の増減額 (△は減少)	△921	△256
未払金の増減額 (△は減少)	△118	△126
その他	△26	△93
小計	888	835
利息及び配当金の受取額	18	13
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△184	△161
営業活動によるキャッシュ・フロー	721	687
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△496	△855
有形固定資産の売却による収入	19	22
その他	△1	△6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△478	△840
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△0	△0
割賦債務の返済による支出	△18	△14
配当金の支払額	△139	△122
財務活動によるキャッシュ・フロー	△159	△137
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	83	△289
現金及び現金同等物の期首残高	3,817	4,418
現金及び現金同等物の四半期末残高	※3,900	※4,128

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(財政状態、経営成績又はキャッシュ・フローの状況に関する事項で、企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の判断に影響を与えると認められる重要なもの)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
投資その他の資産	2百万円	2百万円

2 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため主要取引金融機関と貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
貸出コミットメントの総額	2,000百万円	2,000百万円
借入実行残高	—	—
差引額	2,000	2,000

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

当社グループの主力事業であります石油事業における燃料油販売は、冬季に需要が増加する灯油・A重油が中心であるため業績に季節的変動があり、売上高・営業費用ともに第1及び第2四半期が少なく、第3及び第4四半期が多くなる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
現金及び預金勘定	3,900百万円	4,128百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	—	—
現金及び現金同等物	3,900	4,128

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

配当金支払額

(決 議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	139	16	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

配当金支払額

(決 議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	122	14	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	石油事業	ホームエネ ルギー事業	レンタル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,886	289	295	12,471	—	12,471
セグメント間の内部売上高又は振替高	38	0	0	38	△38	—
計	11,925	290	295	12,510	△38	12,471
セグメント利益又は損失(△)	10	45	△11	44	0	44

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	石油事業	ホームエネ ルギー事業	レンタル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,617	290	288	8,196	—	8,196
セグメント間の内部売上高又は振替高	30	0	0	30	△30	—
計	7,648	290	288	8,227	△30	8,196
セグメント利益又は損失(△)	△28	42	△26	△12	0	△12

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	5円91銭	3円05銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	51	26
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	51	26
普通株式の期中平均株式数(株)	8,738,978	8,738,758

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8 月12日

富士興産株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 牧野 隆一 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 伊藤 孝明 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている富士興産株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、富士興産株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。